

睡眠時無呼吸検査

睡眠時無呼吸症候群 SAS (Sleep Apnea Syndrome)

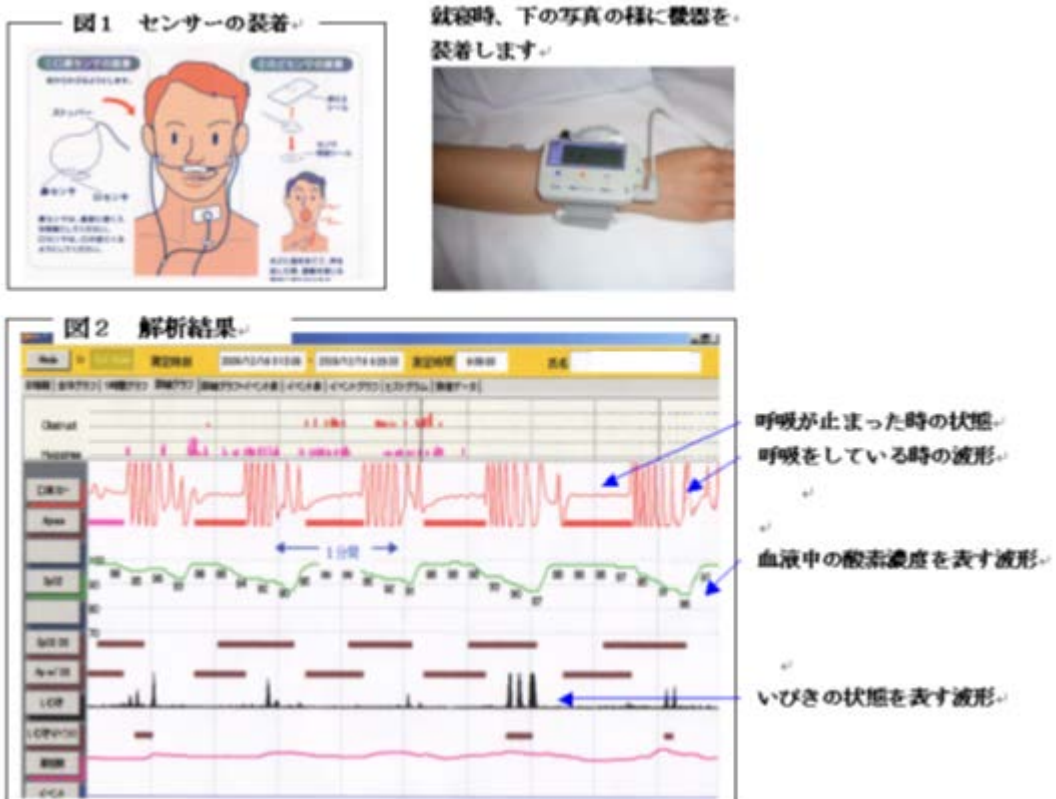
睡眠時、断続的に呼吸が遮断され十分な睡眠ができないため、日中に眠気などの症状が起きる病気のことです。具体的には睡眠中に10秒以上続く呼吸停止あるいは低換気呼吸（ガス交換が効率よくできていない状態）が、1時間に5回以上または7時間の睡眠中に30回以上あった場合に睡眠時無呼吸症候群といいます。

この状態を放置すると、血液中の酸素濃度が下がるため心臓や血管に負担がかかります。特に循環器系に深刻な影響を与え、その結果、高血圧・動脈硬化さらには脳出血や心筋梗塞などが起こり易くなります。また、睡眠が障害され昼間の眠気から交通事故や労災事故の原因にもなり社会的にも問題となっています。

簡易検査

下の図1のように「鼻・喉・指」にセンサーを装着し、睡眠中の呼吸状態を記録します。機器本体は写真の様に携帯電話ほどの大きさです。

自宅に装置を持ち帰り、就寝時に機器やセンサーを装着していただき起床時に取り外します。検査は2晩おこないます。



精密検査（終夜睡眠ポリグラフ PSG）

検査は1泊入院で行います。脳波、目の動き、顎の筋電図、心電図、呼吸センサーなどを取り付けた状態で一晩寝て頂きます。簡易検査ではわからない無呼吸の原因や睡眠の質の分析も行います。また、測定結果よりどのような治療をしたら良いか判定します。